

Cheria チェリア

vol. 74 2026
Spring

なりたい自分を
かなえる職業



チェリアフェスティバル 山形 2025

日時 2025年10月11日(土)～10月12日(日) ※展示発表は10月18日(土)まで

会場 遊学館(山形市緑町1-2-36)

チェリアフェスティバルは今回で25回目を迎えました。

男女共同参画社会づくりを目指しチェリアを拠点として活動している団体・グループが実行委員会を組織して、講演会、ワークショップや展示発表等を開催しました。

実行委員会が企画・運営する防災ワークショップや、入場者が遊学館内を巡って防災に関するクイズを解いていくポイントラリーなど、新しい取り組みも取り入れながら、多彩な催しを実施することができました。また、交流コーナーでは山形県立山辺高等学校食物科の生徒さんがスイーツ販売を行ったり、惺山高等学校の生徒さんがポイントラリーの運営ボランティアを務めるなど高校生にも幅広く活躍してもらい、たいへん活気あるフェスティバルとなりました。



山形大学 Style & 表現研究会によるストリートダンス



エネルギーで熱気あふれるパフォーマンスでした。

アトラクション



伊藤館長挨拶



山形県しあわせ子育て応援部長挨拶

オープニング

講演会

「AI時代のメディアと多様性」
見えない偏見、
語られない声を考える

講師

東京大学大学院 情報学環

教授 林香里氏

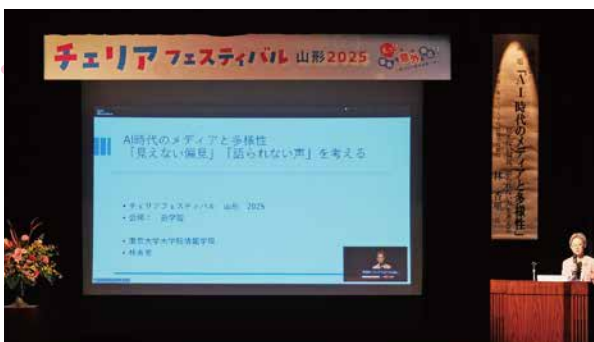


講師：林香里氏

10月11日、オープニングに引き続き、「AI時代のメディアと多様性」見えない偏見、語られない声を考える」という演題で、東京大学大学院 情報学環教授 林香里氏に講演いただきました。まず、「なぜ多様性がメディアで十分に扱われないのか?」というテーマで、ジェンダーに対する無意識のバイアスから生まれる様々な不祥事に見られるように、マスメディアが中心の情報空間には、男性中心につくられてきた均質的文化の歴史があり、女性が声を上げにくい文化が既定値となっている状況についてお話いただきました。

次に「AI、デジタル情報空間の現状」というテーマで、AIが広く利用されることで生じているリスクや情報化の進展がお金もうけに利用されるデジタル・キャピタルリズムの問題等について、具体的な事例も交えて分かりやすく説明いただきました。様々なところにAIが使われ、分らないところに埋め込まれているので、自分で情報を選んでいると思っても、実は選ばれているのかもしれない、「主体は誰なのか」ということが重要なポイントであると指摘されました。

最後に、AI、デジタル情報化時代の課題として、情報の受け手側の低い情報リテラシーの問題、偏見に対抗し情報化社会の現実を正しく報じるというマスメディアの社会的責任について指摘された後、私たち自身ができることとして、良いコンテンツに対してきちんと評価する、私たち自身もよいコンテンツを共に作っていく、いろいろなお勧めの情報をうのみにしない、そして、どんなに情報が増えても必ず語られない声や見えない景色があるので、今の状況について問題意識を持つ・批判的な観点を持つということを考えてほしいと述べられ、講演を締めくくられました。(より詳しい講演要旨をチェリアホームページのイベント実施報告で紹介しておりますのでご覧ください。)





防災ワークショップ

2025

第1部

講話「人権と多様性に配慮して防災・減災に取り組む」

第2部

防災カードゲーム「クロスロード」を体験しよう

講師

特定非営利活動法人
イコールネット仙台
常務理事 宗片恵美子 氏



講師：宗片恵美子 氏

10月11日には、2部構成で防災ワークショップを開催しました。第1部は講話で、「人権と多様性に配慮して防災・減災に取り組む」というテーマで特定非営利活動法人イコールネット仙台常務理事 宗片恵美子氏からお話いただきました。東日本大震災発生時には、避難所や仮設住宅の暮らしにおいて、女性の声が届かない現実があり、プライバシーや役割分担、気持ちの回復に向

けた活動の必要など数多くの問題が顕著となりました。これらの問題に即して洗濯代行や物資の支援、語り合いサロンなどの支援に取り組まれたことや、女性が語る声の聞き取り集をまとめられたこと、「女性のための防災リーダー養成講座」や女性防災リーダーのネットワーク化の取組み、さらに多様な視点へすそ野を広げていく「多様な視点で取り組む防災力UP講座」の取組みなど、震災以来継続的に展開されてきた活動について紹介いただきました。防災・減災に人権と多様性に配慮する視点がいかに重要であるか、思いが伝わる講話でした。

第2部は、防災に関するカードゲーム「クロスロード」の体験会です。「クロスロード」は、様々な防災に関する事例の設問が書かれたカードから、選んだ設問について、自分であつたらどのような選択をするかYESかNOか自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら進めていくゲームです。阪神・淡路大震災の経験を踏まえて制作されたバージョンのものでは、現場で発生した究極の選択を迫られる事例が採り上げられているなど、防災を自分事として認識を深めるのに効果的なツールです。参加者が4グループに分か

れて実際に「クロスロード」に取り組まれました。宗片氏の講話で実際の災害の現場から得られた学びのお話を聞いた後であり、より実感を持って防災を考えることができたものと思います。



実行委員長



ワークショップ & 県民交流コーナー



防災ポイントラリー
(新聞紙スリッパ体験)



交流コーナー(山辺高校食物科)



交流コーナー



ワークショップ



折りの花展



展示ケース



2階ギャラリー

展示発表

工事管理本部で技師として従事する清野さんと職場のみなさまにお話を伺いました。



かよ
清野佳世さん

令和3年、山形工業高校建築科卒業後(株)KOEIに入社、現場管理を担当、現在23歳。

高校時代は水球部に所属。昨年同じ職場の飛翔さんと御結婚。夫婦でカフェ巡りが趣味、休日は美味しいランチでリフレッシュしている。



夫の飛翔さんが公私ともに佳世さんをサポート

性別に関係ない指導と職場のサポート体制が働きやすさの原動力となりました。

建設業を目指したきっかけは、祖父が大工で幼少期には木材加工して作ってくれた滑り台やブランコで遊んでいました。新築住宅やリフォームを手掛ける祖父の姿を見て「人の役に立つ仕事はカッコいいな」と感じるようになり、次第に建設業に興味を持つようになりました。工業高校の建築科に進み卒業後にKOEIに入社しました。入社を決め手は、高校に入学する前に新校舎が建設されて、その工事にKOEIが関わっていたことが大きいです。現在の仕事内容は構図の作成、資材の手配、職人さんとの打合せなどです。



入社当初の困難と克服

入社当初は、年上の男性職人さんとの接し方に戸惑い、女性であることから見下されていると感じることがありました。直接何か言われるわけではありませんでしたが態度や素振りで感じる場面があつて…。

仕事のやりがいとキャリアプラン

しかし職場がジェンダーフリーな環境で、性別に関係ない指導のおかげで自分の持ち前のコミュニケーション能力を発揮し、徐々に打ち解け良好な関係を構築することができました。

自分の描いた図面が形になり建物が完成することに大きな達成感を感じます。また、顧客や他業者と協力してつものものを完成させるプロセスに働きたいがあります。今後の目標は1級管工事施工管理技士の資格取得を目指して、夫に支えてもらいながら仕事と勉強の両立に励んでいきたいと思っています。

中川部長よりコメント

5年目で現場を担当することは今まで清野さんが努力していたことや仕事に向かう姿勢が評価されたからだと思います。これからも共に成長できるように関係で、一緒に頑張っていけたらと思っています。今後とも期待しています。



職場環境の醸成に寄与。中川部長(左端)、川村室長(右端)



POINT 株式会社KOEI

- ◎家族・夫婦での勤務に寛容な社風
現在清野さんを含め4組のご夫婦が勤務しているほか、家族や兄弟勤務している方も！
- ◎柔軟な育児休業制度
育児は通常1年半取得可能で、希望に応じて柔軟に対応。在宅・時短勤務も選択可能。男性の育児取得実績もあり、夫婦で協力して仕事と育児が両立できる！女性社員との離職率が非常に低く、結婚出産後も復帰が一般的！

株式会社KOEI 会社概要

〒990-2221
 山形県山形市大字風間字地蔵山下2068 TEL 023-616-5651
 大規模な新築・改修工事から個人宅の水回り修理まで幅広く対応。
 昨年、業界の人材不足解消のため、パートナー企業若手人材を受け入れる教育機関「KDWアカデミー」を設立。未経験者向けの育成プログラムや資格取得サポートを提供し、業界全体の活性化を目指している。

社員も企業も社会も、「ともに、しあわせに。」を目指して

〜お互い様と感謝と認め合いの文化〜

昨年、山形県の人口が100万人を割りました。若年層、特に女性の県外流出が最大の要因と指摘され、流出は就職時期に顕著にみられます。そこで、若者、女性から選ばれるための組織のポイントについて株式会社ジョイン 専務取締役 武田靖子氏にお話を伺いました。秋号での前編に引き続き今回は後編をお届けします。

2 社員一人ひとりのウェルビーイング向上のための取組み

私は、リーダーとは「こうありたい」意思を持ち、周りを巻き込んだ



株式会社ジョイン 専務取締役
武田靖子氏

で実行できる人だと定義しています。リーダーシップは誰にでも備わっていて、社内プロジェクトリーダーなどに任命すると自信のない社員も成長します。こうして社員が能力を発揮しやすい環境づくりをすると、次第に力をつけて管理職を目指す社員が育てきました。

また、上司や部下(縦)、同僚(横)だけでなく、部署や役職を超えた「斜めの関係性」構築のために女子交流会を企画しました。自分以外は全員男性の職場の女性が他部署の女性に相談したり、共通の趣味でつながるなど活発に交流できました。それから「ありがとうカード」を導入し、感謝を伝える文化を推進しました。業者の方々も目にする場所にカードを掲示して、お客様からの感謝の言葉と共に社員のモチベーション向上につなげています。

弊社では2010年に事業所内託児所を設置して以降、育休取得率は100%となり男性に

は1〜2か月のまとまった期間の取得を推進しています。育休を取得した男性社員の感想を共有し、他の社員の理解と関心を促進し、研修では取得の意義を共有して働きやすさや成長意欲につなげています。

従業員のウェルビーイング向上策として、土日営業の現場であつても週末休みを取得できるよう工夫したり、親子の休日が合わない場合の関わり方を共有したり家庭教育講座を開催したりと、仕事だけではなくプライベートも皆で考慮できることを目指しました。毎週の経営会議で課題を共有し改善サイクルを回しています。ワークライフバランスは、従業員一人ひとりの状況が異なることを前提とし、相互尊重を促しています。

企業文化改革としては、社内アワード制度を作りしました。ウェディングや葬儀のコンテストを開催し、従業員のモチベーション向上、スキルアップなどを促進しています。おかげで全国大会優勝者も輩出し、

良きロールモデルとなっています。また、専門領域だけでなく、英会話やカラーコーディネートなど関連スキルを学ぶ「掛け算」を推奨しています。これにより仕事の可能性を広げ、従業員独自のキャリア形成を支援しています。

人材育成とキャリア開発の仕組みとしては、個人の目標設定の「ミッションシート」をもとに丁寧に面談を行い会社の目標や計画を自分事として達成することを目指しています。キャリアパスは、個々の性格や資質に合わせて評価できるように評価制度を二軸にしました。これにより適材適所と納得感のあるキャリア形成につなげています。若者には無限の可能性があり、希望を持って未来を切り開く視点を持たせることが重要です。私は「ライフデザイン」という考え方を通じて、変わりたいという意志があれば人は変われると伝えて

3 多様な性に関する取組み

弊社では、県のパートナーシップ制度開始前から「LINC(アライ)宣言」を行い、社内勉強会や研修を実施しています。山形県はジェンダー平等に関するスコアが低く、社会の意識変革のために企業内での啓蒙も必要と考えます。性のあり方は、ホルモンや脳の考え方によって

2000通りあるといわれています。「目の前の人が幸せになること」を最も大事にする考えを共有しています。

最後になりますが、経営者には時代を見通す責任があり、常に学び続けないと会社は選ばれなくなりますが、弊社では、現場の不満や不安にその都度対応する臨機応変な仕組みを作り、時代に合わせて変化してきました。企業は従業員の幸福を支える経営姿勢が重要ですので、頑張りや正当に評価して、それに見合った働きやすさを提供することを重視しています。これからも従業員の生きがいを支え、応援する姿勢でマネジメントをしていきます。

株式会社ジョイン

冠婚葬祭業の先駆者として、60年以上にわたる「平安典礼」葬儀場の運営、県内最大級の結婚式場「パレスグランデール」を中心としたブライダル事業やレストラン経営など、多岐にわたる事業を展開している。社員のキャリアアップ支援や健康福祉の向上などワークライフバランス推進の取り組みが評価され令和6年山形県産業賞受賞。



「気づく・つながる・動く」みんなで作る地域防災セミナー



- 講座の目的**
- ①山形県の実状を知る。
 - ②災害時の「見えにくい困りごと」を知る
 - ③自分が家庭・地域・職場でできる行動を見つめる の3点を学ぶことが本日の講座の目的であると説明いただきました。



チェリアでの開催は初めてとなる防災セミナーを、会場受講とオンライン受講のハイブリット形式で行いました。

「気づく・つながる・動く」みんなで作る地域防災セミナー」と題した今回のセミナーは、講師に防災士の伊藤和美氏と、サポーターとしてNPO法人明日のたね代表の丹治亜香音氏を迎え、男女共同参画の視点からの地域防災を学びました。

開催日 令和8年1月31日(土)
会場 遊学館2階 学習室
講師 防災士 伊藤和美氏



①山形県の実状を知る

山形県内4地域の主な災害について具体例も交えながら説明をいただきました。また、山形県の高齢化率を踏まえ、高齢化を考慮した防災の設計が必要ではないか。そういった視点を皆で考えていく必要があるのではないかなど、の問いかけが受講者にあり、多様な視点からの防災を考えるきっかけになりました。さらに、日本の避難所の問題点として、雑魚寝、簡易ベットが無い、食事が冷たい、トイレが少ない、入り口がどこか分からない、運営が誰でもこなすのか分からない、などが、特にトイレ問題では性暴力の被害も起きることがあることを学びました。

②災害時の「見えにくい困りごと」を知る

その後、①あなたの周りで困りそうな人は？②その人のために何が必要かを考えるグループワークを行いました。グループごとの発表では、「人暮らしの高齢者に対しては常日頃のコミュニケーションの必要性、持病のある方に対しては

お薬手帳の必要性、海外の方に対しては翻訳アプリの必要性など各グループで様々な意見が活発に出されました。

③自分が家庭・地域・職場でできる行動を見つめる

今回の講座を通し、各々が明日からできることの行動宣言を行いました。「家庭の備蓄品を見直す」「地域の防災計画や避難所の確認をしたい」など、自分が明日から具体的に何ができるのかを考えるきっかけになりました。

講座のまとめ

最後に講師より、「防災は支え合いであり、多様性が命を守り、男女共同参画は防災の力になります。誰がいないのか、それは今ここにいる私たちです。今日の講座で人と話をして「なるほど」ということがたくさんあったと思います。こういった講座に参加することも大切だと感じてほしいです。」との言葉で、今回の講座は終了しました。

会場受講者からは、「地域とつながりが大切だと思った。避難所作りは、自分



たちの声が大きいくことを知った。人任せではダメだと思った。」オンライン受講者からは、「声を上げ行動をおこす」という言葉が心に残りました。男女共同参画を進める上でもとても大事な言葉だと思えます。「男女共同参画は防災の力になることを、すばらしい講演とワークショップ参加者の発言をとおりて実感し、防災力のアップデートになりました。この気づきを県内へつなぐことが課題だと思えますので、「私が地域でできること」を考えて動きたいと思えます。「など、さまざまな感想をいただき、満足度の高い充実した講座になりました。

講師プロフィール【防災士/伊藤和美氏】



防災士/NPO法人明日のたね副代表理事/庄内町防災士ネット/庄内町議会議員
 2011年当時、勤務していた庄内地域子育て応援協議会で、防災に女性と子どもの視点がないことに気づき、親子防災講座を企画、安心ノートTOMONIを作成し、庄内地域の子育て世代すべてに配布する。その後、防災士資格を取得する。2013年庄内子どもプロジェクト明日のたねを立ち上げ、2014年法人化。防災出前講座は子育て支援センターや地域の依頼を受け行っている。

column

館長こらむ

防災・減災を 男女共同参画の 視点で考える



山形県男女共同参画センター チェリア館長 伊藤 眞知子

東北公益文科大学名誉教授、山形大学理事・副学長。
国立女性教育会館事業課研究員、東北公益文科大学教員を経て、
2021年4月からチェリア館長。「チェリア塾」講師を長年務めるとともに、
「女性のためのこころのケア講座」(庄内ちえりあ主催)等で女性のエン
パワーメントを応援している。山形県男女共同参画審議会委員、山形県
公益認定等審議会委員長など。2016年度男女共同参画社会づくり功勞
者内閣総理大臣表彰受賞。

地域防災に 男女共同参画の視点を

チェリアでは令和7年度「地域防災セ
ミナー」を開催しました(右ページ参
照)。これまでもチェリアフェスティバルに
おいて、令和6年度の分科会(全国女性
会館協議会全国大会と併催)や令和7
年度実行委員会主催の「防災ワークショ
ップ」など、男女共同参画の視点から防
災を考える機会を設けてきました。そし
て今回、地域防災に男女共同参画の視点
を取り入れることをテーマに、初めてセミ
ナーを主催事業として実施したのです。

防災・減災、そして災害復旧・復興の
現場に「男女共同参画の視点」が必要
なことは、阪神・淡路大震災(平成7
(1995)年をきっかけに、認識が高ま
りました。被災者支援や避難所運営に
は、女性、母子、障がい者、高齢者、外国
人等の多様な視点を反映することが重
要であり、とくに人口の半数を占める女
性の視点が欠かせません。東日本大震災
(平成23(2011)年)、さらに熊本地
震(平成28(2016)年)や能登半島地
震(令和6(2024)年)など、大きな
災害の被災地で、こうした視点は十分に
取り入れられていたのでしょうか。

この問いに対して、3ページの「防災
ワークショップ」の講師、宗片恵美子
さんNPO法人イコルネット仙台常務
理事は、能登半島地震後のヒアリング
調査結果(「彩あふれる能登の復興へ」
を紹介し、東日本大震災後の調査結果
と「同じことが起きている。がっかりして
はいられない。繰り返さないために」と語

りました。非常に心に残る言葉でした。
「同じこと」とは、次のことです。

- 避難所の運営において、女性や多様な
人々のニーズが十分に把握されていな
かった。
- 炊き出しなどの労働は、主に女性が、
長時間にわたり、無償で担っていた。
- 震災の影響のみならず家族・親族のケ
アのために出勤できず失職した女性が
みられた。

避難所には女性の リーダーが必要

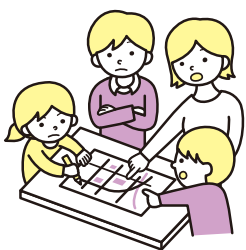
これらのことがなぜ繰り返されている
かと言えば、避難所のリーダーのなかに
女性が「不在」であることが、いまだに多
いためです。リーダーが男性ばかりだと、
女性や子ども、高齢者、障がい者、外国人
たちのニーズや意見、困りごとが気づか
れにくく、届きにくい状況になったり、炊
き出しは「女性」、家族や弱者の世話は
「女性」となったりしがちです。避難所で
は、男性が決めて、女性が従うという旧
来型でなく、「ものごとを決め」支援す
る「リーダー」に女性に加わり、支援者と
しての力を発揮することが必要です。多
様なニーズに対応する女性リーダーの存
在が、より良い避難所の環境整備へとつ
ながります。

そのためには、日頃の地域活動、自治
会・町内会、地域防災組織の活動のなか
で、当たり前のごとして、女性のリーダー
が活動していることが大切です。普段やっ
ていることが、非常時にこそ発揮される
のですから。

女性防災リーダーを 増やしていく

チェリアのスタッフの一人が、今年度、防
災士の資格を取得しました。資格を取る
ことだけが女性防災リーダーへの道では
ありませんが、専門知識やスキルを学ぶ
ことは、リーダーとしての自覚や自信につ
ながります。防災に関心のある方は少な
くないと感じています。「関心がある」方
は、すでに「この分野で何かしたい」「人の
役に立ちたい」という気持ちがあるので
すから、防災について学び、仲間とともに
活動することで、防災リーダーとしてきつ
と活躍できるはずです。地域に女性の防
災リーダーがどんどん増えていき、男女
共同参画の視点を取り入れた防災活動
が、当たり前のごとして定着していく
ことを、心から願っています。

最後に、災害はいつどこで起きるか
わかりません。そこで、自宅はもとより、職
場や学校、地域コミュニティなどでの防災
訓練や備蓄品整備、災害時にどう行動
するかを身近な人と話し合っておく等の
備えが重要です。私たち一人ひとりが防
災・減災への意識を高め、いざという時に
適切な行動がとれるよう、備えていきたく
と思います。



山形県男女共同参画センター 事業のご案内

令和8年度から始まる新たな「山形県男女共同参画計画」に基づき、限られた資源を有効に活用し、効果的な事業運営を推進していくため事業を見直します。主な事業の変更内容は次のとおりです。

○人材育成

「チェリア塾」は「基本コース」と「実践コース」を隔年開催とします(令和8年度は村山地域で実践コースを開催)。また、企業・事業所への出前講座に注力するため「専門コース」を県多様性・女性若者活躍課との共催により、男女共同参画推進員の研修に重点を置き充実させ、地域・職域での推進力の向上を図ります。



R7 チェリア塾実践コース

○助成制度

「県民企画事業」、「ネットワーク活動支援事業」、「地域講座開催支援事業」、「学習会等支援事業」の助成制度に実践コースやユースリーダー養成講座の修了生による企画実施への支援を新たに追加するとともに、これらの予算を統合しそれぞれの事業への助成を弾力的に運用できるようにします。

○相談

性の多様性に関する電話相談「にじいろほっとライン」は、これまで1年間の相談実績に鑑み、公認心理師または臨床心理士への相談を月2回へ拡充し、弁護士への相談は当面実施しないこととします。

これらにより、社会情勢に即した柔軟な支援体制を構築し、誰もが輝ける山形づくりを推進します。
各事業の詳細は、チェリアのホームページでご確認ください。



R7 コースリーダー養成講座

表紙撮影

Photographer サウトモミ



サウトさんについて
(チャレンジ応援やまがた)

山形市出身。2018年、「Tomophoto(トモフォト)」を設立。ライフワークとして働く女性を撮り続け、2024年文翔館にて「働く女性の写真展」を開催。同年11月より誰でも気軽に立ち寄れる憩いの場として月に1度の写真館「Tomophoto月イチ写真館」を開設し、写真教室も始めるなど幅広く活躍している。

編集後記

今年度の広報誌チェリアでは山形県内で活躍している方々に取材を通してたくさんのお話をお伺いすることができました。今回の表紙の清野佳世さんは冬の寒空の中、現場で活躍しています。「寒くないですか?」とお伺いしたところ、「結構耐えられます」とさらっと答えた姿に頼もしさを感じパワーをもらいました。働く事は自分一人の力ではなく職場環境や相談できる上司や仲間がいることで成り立つものなんだと(株)KOEIのみなさんのお話をお伺いして認識させられました。山形県内にはまだまだ素敵な企業がたくさんありますので今後もご紹介していきたいと思っています。

さくらい

山形県男女共同参画センター チェリア

〒990-0041 山形市緑町1-2-36 遊学館2階
TEL 023-629-7751 FAX 023-629-7752
相談専用電話 023-629-8007
HP <https://yamagata-cheria.org/>
利用時間 午前9時～午後9時
※夜間利用の申し込みがない場合は午後8時まで
休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始



【アクセス】

- JR山形駅から
バス/市役所経由路線バスで
市役所前下車、徒歩5分
タクシー/約10分 徒歩/約25分
- 自動車

山形自動車道山形蔵王ICから約10分。
県営駐車場、遊学館駐車場をご利用下さい。
入退館時に駐車券を遊学館1階の総合案内へお出し下さい。
ご利用時間に応じて駐車料金が割引になります。

